

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 20日

事業所名 療育支援室 せいかエデュケアルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		法令に基づく、指導訓練室の広さ基準を確保し、利用人数や年齢に合わせて、スペースや遊具を使い分けている。	今後も複数の利用者の方がいらっしゃる場合は、課題に合わせて感覚統合遊具を使い分け、動く範囲を考慮する。
	2	職員の配置数は適切である	4		利用人数や状況に合わせて配置しており、安全確保のために複数職員で支援することもある。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		必要最低限の情報（絵カードや玩具、遊具）を出すなど、特性に配慮している。	利用者の方がより分かりやすい表示を改めて考え直し、特性に応じてイラストや写真等の視覚的な情報を活用する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎朝、清掃・消毒を行い、遊具に緩みがないか等の点検を実施している。また、天気や気温に合わせて空調を整えている。	活動に応じてその都度掃除をし、マットや床など更に清潔に保てるようにする。
業務改善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		職員全体で、計画を立てるところから振り返りまで共有する時間を設けている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		評価を実施し、ご意見に対して改善していけるように職員間で共有している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページで公開し、課題や改善点に取り組んでいる。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3		今後、必要に応じて外部評価の実施を検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		スキルアップや広い視野・視点をもつため、自主的に研修に参加している。	研修に参加できないときは自己研鑽の時間を設ける。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		発達検査の結果や子どもの行動観察、保護者への聞き取りから計画書を作成している。	保護者と積極的にコミュニケーションをとり、ニーズや課題を把握する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		発達・運動面に関するチェックシートを活用している。	アセスメント内容を見直し、記録しやすいようにする。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	1	発達支援（生活、運動、認知適応、言語社会）、家族支援（保護者との振り返り等）、地域支援（連携）といった支援内容で進めている。	今後も継続して、ガイドラインやその時の課題に合わせて、支援に必要な項目や支援内容を設定し、個別支援計画書に記載する。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		支援計画に沿ったプログラムを立てている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		発達に合わせたプログラムを内容を職員間で共有しながら決定する。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		必要に応じて教材を追加しながら、次につながるプログラムを考えている。	同じプログラム内容でも支援方法をええ、固定化しないようにする。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		課題や年齢に合わせて集団も取り入れている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		毎日必ず情報共有するようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		成長した点や子どもの言動、支援方法を共有し、次の支援につなげられるようにしている。	今後も関わり方や支援方法が適切であったか、その都度振り返り、次回に生かす。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	記録用ファイルを作り、毎回必ず記録している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		6ヶ月に1回モニタリングを行っている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2	研修で参加方法を学び、内容を活用できる職員が参画している。	必要であれば参加する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3		保健センターや相談支援員の方と情報共有し、支援に取り入れている。	子育て支援の関係者、機関と必要に応じて連携して支援する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当見なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当見なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		各保育園・幼稚園で共有できるよう、訪問支援を行っている。	更に密に情報共有し、支援に役立てて成長につなげる。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)と間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2	該当見なし	学校側から求められた時は対応する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	積極的に研修を受けたり、実際に施設を見学している。	直接的な関りはないが研修等で情報交換し、他事業所の先生方と交流を深める機会を持つようにする。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	1	外部の保育園からの利用者を交えて集団療育を行ったり、子ども園の施設を使って交流するよう工夫している。	子ども園の園庭などを利用し、交流の場を増やす機会をつくる。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	3		必要に応じて参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		毎回必ず話す機会を設け、直接お伝えしたり、毎回会えない方とは連絡システムを使いお伝えしている。	送迎利用等でお会いできない保護者の方には、共通理解を図るため、定期的に活動を見に来ていただけるよう積極的に働きかける。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	保護者の方と振り返りの際に、専門職員がコアエレメントの内容を理解して助言を行っている	家族支援について詳しく学ぶ機会があれば参加する。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に説明し、不明点がないか確認している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		作成した計画書に基づいて説明し、同意を得た上でサイン・捺印していただいている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1	3	必要に応じて専門職員が面談を行っている。	保護者の方と会う機会が少ない場合は、保護者の相談に対応できるように定期的に機会を設ける。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		保護者同士が出会うときは関わる機会をつくるようにしている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		ご意見をいただいた際はすぐに改善するように職員で共有し、対応している。	さらに相談しやすい環境づくりと、迅速な対応に努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		毎月エデュケアルーム新聞を発行したり、連絡システムで情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個人情報使用同意書を活用している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		状況に合わせた伝達方法(直接、電話、連絡システム等)を用いるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3		プライバシーの問題から実施していない。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		併設の子ども園と同じマニュアルを策定し、訓練を行っている。	訓練の内容を全職員で共有し、緊急時に冷静に対応する。
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		併設の子ども園と行い、訓練時に利用されている方に一緒に参加してもらっている。		

非常時などの対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		見学・契約時に聞き取り、また児童調査票にも記入していただき、常に注意している。	てんかんや持病の一覧表を作り、管理する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	該当見なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	少しでも危険があれば共有し、改善するようにしている。	事例集になるほど事例が出ていませんが、今後も共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		研修に参加し、日頃から意識している。	研修内容を共有し、学びの場を増やす。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		4	身体拘束をするケースなし。	危険が伴う場合など突発的に身体拘束となることが想定されるケースや改善に向けた取り組みも含めて検討する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：2024年 3月 20日

事業所名：児童発達支援 療育支援室 せいかエデュケアルーム

対象人数（保護者）25人 回答者数 14人 回収 56%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	14					
	2	職員の配置数や専門性は適切である	14				先生も体調不良や急用もあると思うので、そのような場合には子供2人に対して先生1人でもオッケー等、臨機応変に対応できたら良いと思います。	年齢に合わせて職員の人数を変更させていただくこともあると思います。危険のないように安全に十分配慮して支援を提供できるようにしていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14					
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	14					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	1		1		その時の課題に合わせて、支援内容を設定し、個別支援計画書に記載しております。更に保護者の方にわかりやすく説明し、納得して支援を受けてもらえるように努めます。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	14				毎回色んなプログラムを考えてくださっており、本人も楽しみにしています。	課題内容は発達や状況に応じて工夫し、楽しみながら続けていけるよう努めます。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	11		1	2		併設のこども園の遊具や砂場などの利用を今後努めます。
保護者への説明など	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	13			1		更に丁寧に説明できるように努めます
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	12			2		個別支援計画や活動プログラムなど、保護者の方にさらにご理解いただけるように努めます。
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）等が行われている	8	1	1	4		保護者の方向けの学習会など今後検討したいと思います。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができています	13			1		ご利用の都度、成長や課題をお伝えし、保護者の方からも困りごとやお悩みをお伺いするなど共有に努めています。今後の課題を支援内容に盛り込み、わかりやすい説明を心掛けます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	12	2				半年ごとのモニタリング面談のほか、随時相談支援も行っています。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	4	2	1	7		保護者の方が参加していただけるような行事など検討いたします。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	13			1		連絡システムを利用し、相談体制の周知に努めます。また申入れがあった際は適切に対応いたします。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	13			1		連絡システムを利用し、保護者の方との連絡体制を整えています。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	7	1	2	4		連絡システムを利用し、活動記録や行事予定などを発信しています。
19	個人情報の取扱いに十分注意されている	13			1		契約時の『個人情報使用同意書』を遵守し、大事な個人情報は鍵付きロッカーへ入れ、厳重保管しております。	
非常時の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されている	7	1		6		併設のこども園と同じマニュアルを策定しており、毎月一緒に訓練を実施しています。訓練に参加された場合は保護者の方にもお伝えするようにいたします。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	4	1	1	8		併設のこども園と一緒に毎月訓練を実施しています。今後保護者の方にもご参加いただける機会を検討いたします。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	14					安心して通っていただけるよう、楽しく続けていただけるよう今後も努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足している	14					適切な支援の提供のため職員の資質向上に努めてまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。